基調講演：最適解がないなかでの被災者支援から考える「経験価値」
～令和６年能登半島地震で再考した患者中心性医療の在り方と医療者の矜持～
特定医療法人社団勝木会常務理事　やわたメディカルセンター院長　勝木 達夫

2024年１月１日の能登半島地震発生からその後の豪雨被害も加わり、石川県、特に奥能登地域には甚大な被害が発生しました。自らも被災した医療者がどのように被災者に向き合うのが最適解なのか、いくつかの場面（当地での避難者対応、現地での患者対応、転院例での本人家族のはざま、職員の発表会）を提示し、みなさまとともに考えてみたいと思います。

シンポジウム①：PXE5期生と振り返る養成講座
Swallowish Clinic院長　金沢英哲
私は慢性期医療と在宅医療を行う医師(現役の外科医)です。専門のひとつは重度摂食嚥下障害のリハビリテーションで、日本全国・海外に往診するセカンドオピニオン、全国医療機関(病院、診療所、歯科、訪問看護ステーション等)のコンサルタントもしています。問題解決に有用な臨床倫理コンサルテーションと併せて、コーチングの実践によりさらに患者中心性は高まり、現場医療スタッフの心身支援をも高められ得ると感じています。

株式会社ケアコム　価値共創グループ　バリューコーディネーター　大野亮一
当社ではこれまで3名がPXE養成講座を受講し、PXEとして認定されています。医療従事者ではない一般企業の人間がなぜPXについて学ぶのか。私自身のPXとの出会いを振り返るとともに、養成講座の受講を通じて得た学びや課題と考える点について発表します。また、PXに関連する当社の取り組みについても事例を共有します。

板橋中央総合病院　リハビリテーション科　係長　浅村海帆
PX養成講座受講後、PX向上に取り組もうとするも離職率が30％を超え、EX向上が優先と判断し、EXへの取り組みを始めました。そのなかで、私達セラピストは、患者さんに関わりPX向上につなげることで、EXも向上することに気付かされました。養成講座を受け、患者中心の医療に対する視野の広がり、スタッフとPX/EXに対して協働した経験をお話しします。

講演②：PX研究会初の研究助成金の取り組みについて
大分大学医学部附属病院　リハビリテーション部　技術職員　指宿 輝

リハビリテーション領域におけるPXの実践は、課題があると感じています。また、研究の実践を行う際に苦労することがあるのではないでしょうか。今回は、助成金を活用しながら研究を行い、リハビリテーション領域におけるPX研究の発展と職場内にて円滑な研究の実践という内容を主に、みなさまにお伝えしていこうと思います。

講演③：EXサーベイの実施と取り組み～第一回調査から考察する今後の方向性～
特定医療法人社団勝木会　法人本部総務人事部部長　滝口尚之

大企業では「人的資本経営」が推奨され、人材の質や生産性などの開示も求められる状況になっています。多くの医療機関においては、医師・看護師や薬剤師などの「質」以前に、人材確保そのものに難渋している現実があります。EX的視点での「エンプロイー・ジャーニー」を俯瞰して、EXサーベイで何を調査し、どんな問題点を見つけ、どう人事施策に結びつけるのがベターなのかを「人事部目線で」考えたこと、また今後の展望を紹介します。

シンポジウム②：働き方改革実践例
都立広尾病院　病院総合診療科　小坂 鎮太郎
順天堂大学医学部附属順天堂医院　NP準備室／心臓血管外科　診療看護師　重冨 杏子

本年４月より「医師の働き方改革」が始まりました。それぞれの医療機関で、タスクシフト、ITの活用など、さまざまな工夫によって対応されていますが、最終的にはEXの改善、PXの改善に結びつくことが望まれています。本シンポジウムでは現場の取り組みを紹介することで、みなさまと一緒に「医師の働き方改革」のあるべき姿を探りたいと思います。

特別講演：医師の働き方改革が創るPXの未来
聖路加国際病院 一般内科 医員　藤川 葵

PX（PatienteXperience;患者経験価値は、医師の働き方改革によってどのように変化するのでしょうか。本講演では、演者の厚生労働省医系技官としての経験に基づき、働き方改革が医療サービス全体に与える影響を探り、患者と医療者が協力して実現する新しい医療の在り方を提案します。患者自身が行動を起こし、医師を支えるための具体的なアプローチも考えていきます。